

PDS ISOGEN Technical Report

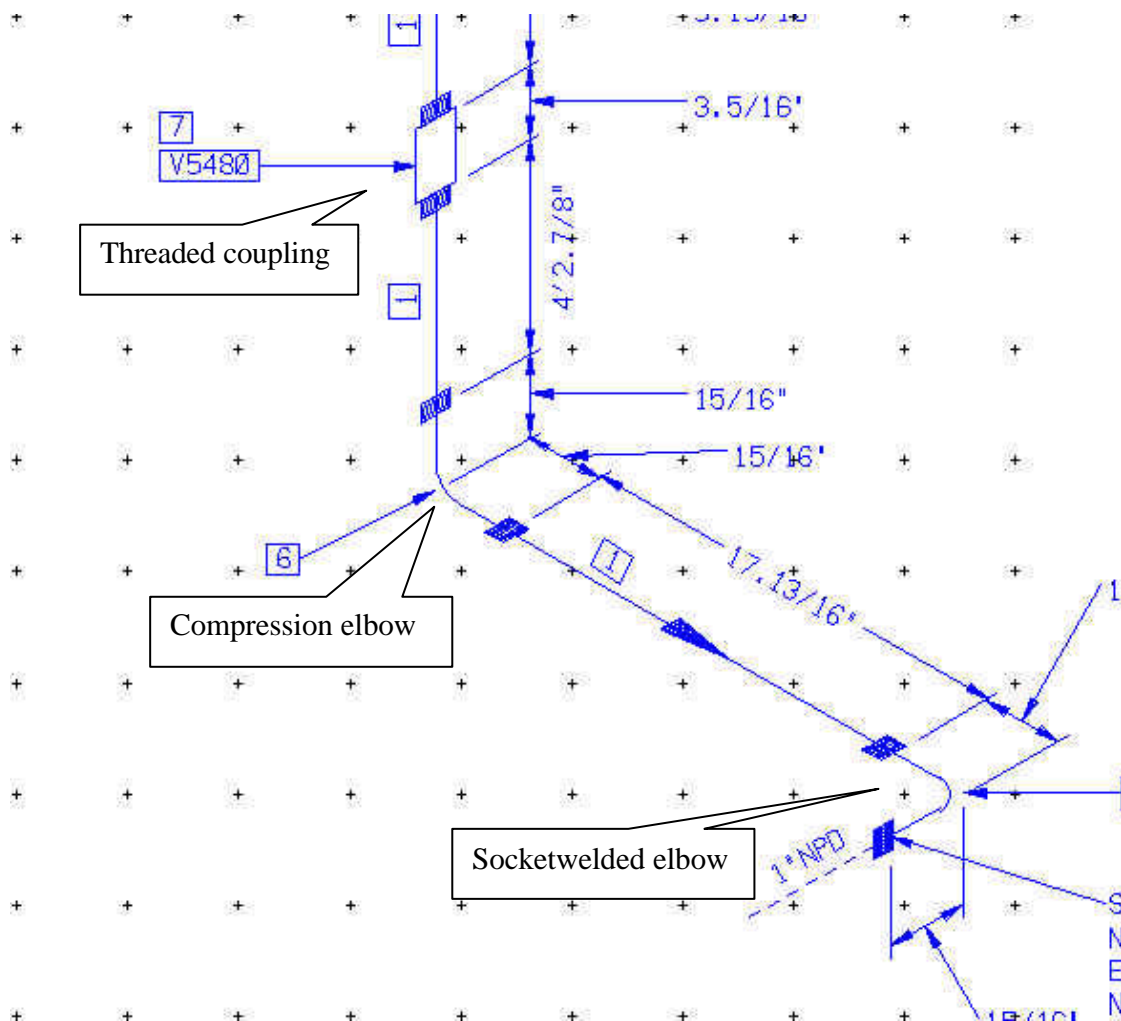
この機能は、PD_ISOGEN Ver07.00.00.15(ISOGEN V 8.5.5.以上)からご使用になれます。

現地接続 (SW, SC, CP) シンボルの再定義方法 (CR 9089)

ISOGEN は以前から、SocketWeld・ScrewWeld、Compression の現地接続部には、塗潰しのボックスで表示していました。これは多くのユーザの要求する仕様と矛盾しており、塗潰し部を取り除く方法が仕様変更要求として挙げられていました。ISOGEN V8(PD_ISOGEN7.0)のリリースにより、SKEYを再定義することでこの問題を解決することが出来るようになりました。

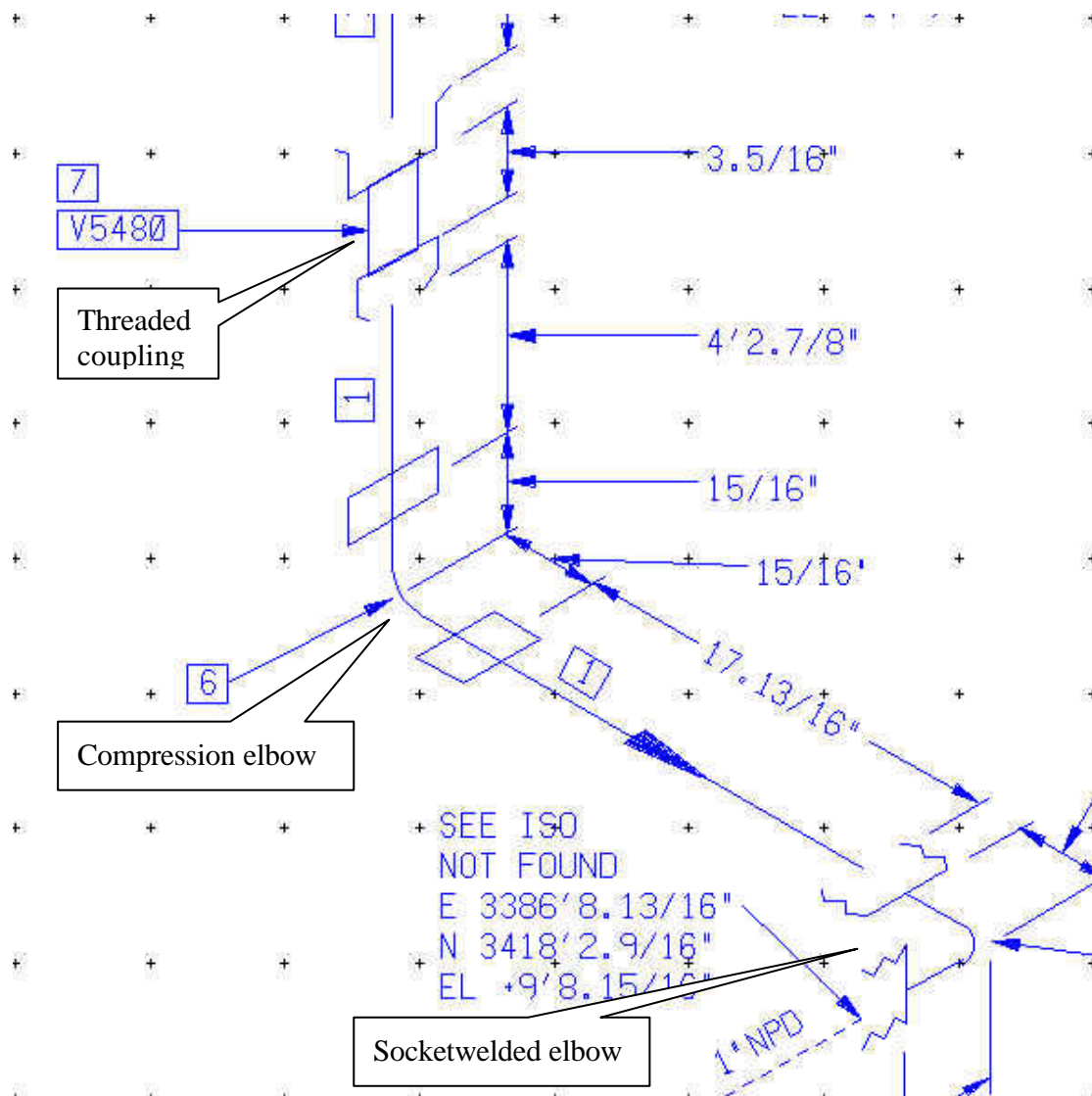
Delivered Symbology

サンプルとして提供されている symbol.lib は、現地接続部の SW・SC・CP は塗潰しになります。下図には、エルボ（ソケット溶接）、エルボ（圧搾接続）、カップリング（ねじ込み）の部品が配置されています。接続部は全て塗潰されていて視覚的に違いを判断するのは難しくなっています。



シンボル (SKEY) のカスタマイズ

シンボルは、以下のようにカスタマイズすることが出来、接続部を視覚的に区別することが可能になります。

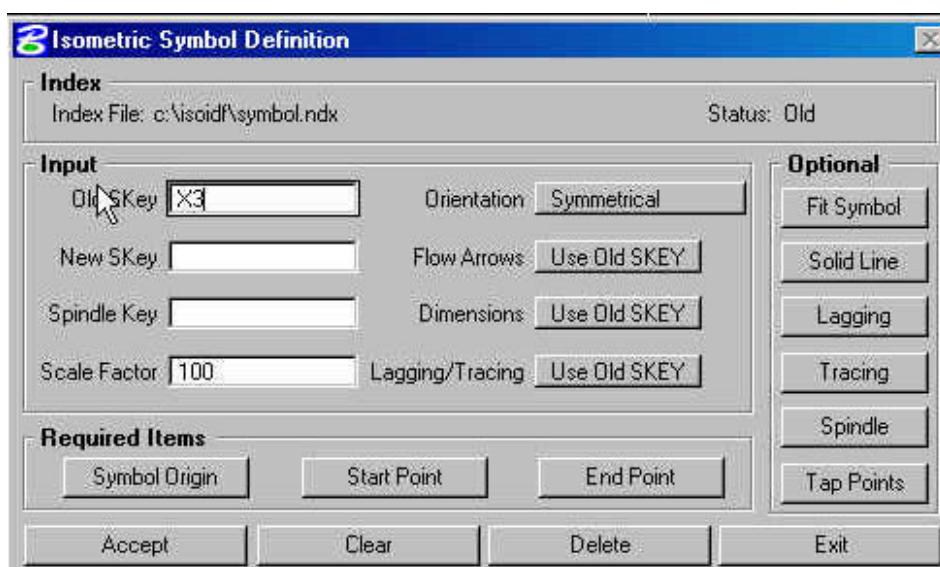


シンボルの再定義

カスタマイズしたシンボルを表示させるためには、5つのシンボルキーを再定義する必要があります。ISOGEN シンボルエディタを使用して再定義します。

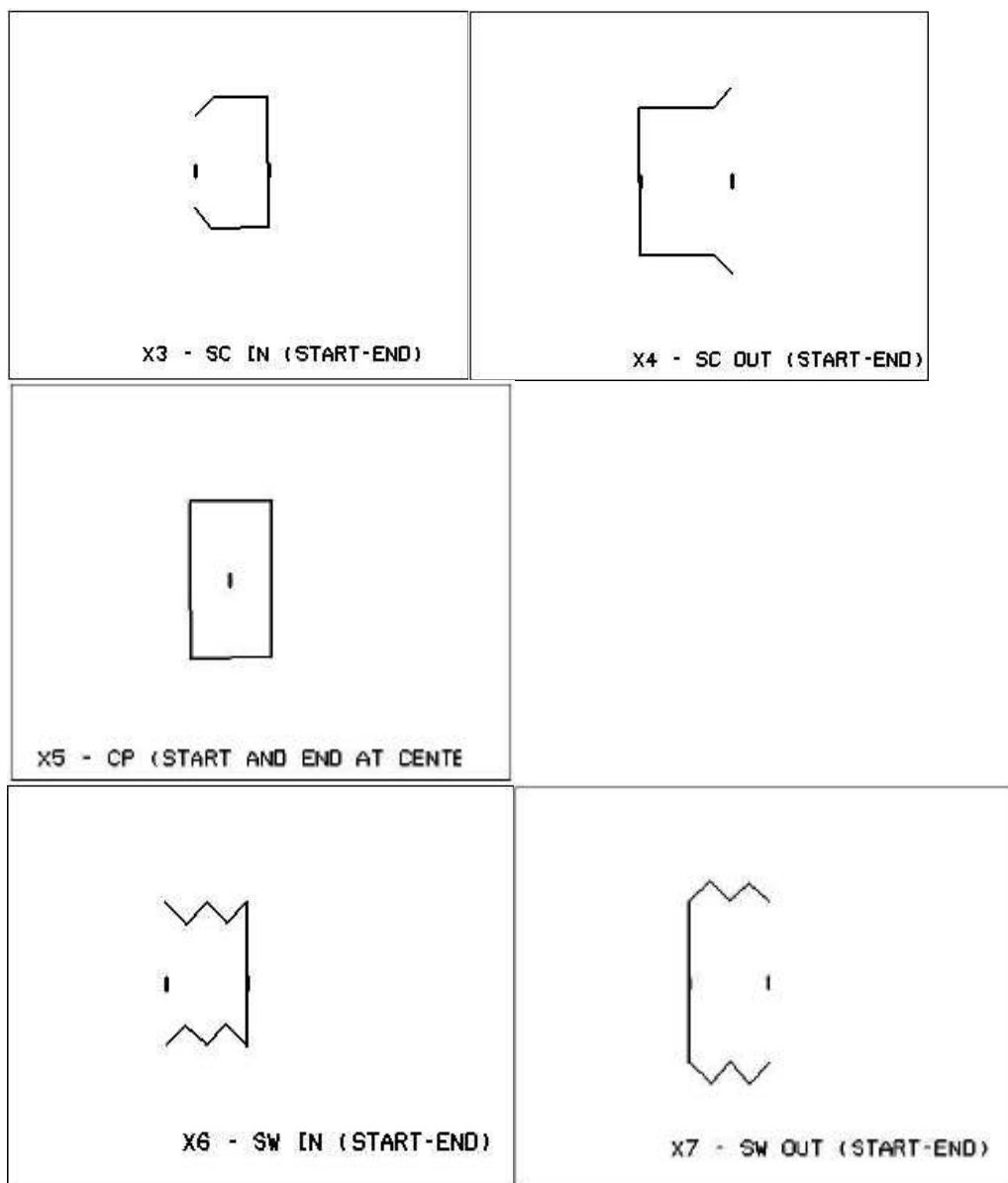
X3 – SC イン	現地接続 (field fab) のねじ込み部品のイン側
X4 – SC アウト	現地接続 (field fab) のねじ込み部品のアウト側
X5 – CP イン・アウト	現地接続 (field fab) の圧搾接続の両側
X6 – SW イン	現地接続 (field fab) のソケット溶接のイン側
X7 – SW アウト	現地接続 (field fab) のソケット溶接のアウト側

修正したいシンボルライブラリファイルを指示後、ISOGEN シンボルエディタを起動します。ダイアログから、old key に対して X3 を入力して X3 を再定義します。New key は、ブランクにします。同様に他の key に対しても再定義していきます。



Microstation で Solid Line を使用して端部の形状を作成します。シンボルエディタの詳細は、Isogen リファレンスガイドを参照ください。次の図は、シンボル作成の参考にしてください。スタートポイントは左側、エンドポイントは右側に設定してください。

注意：X3 から X7 シンボルは、デフォルトは塗潰しになっています。再定義をして初めて有効になります。



シンボリエディタを使用して端部の形状を作成後は、シンボルライブラリを更新してください。現地接続のフィッティング (SW、SC、CP 接続) が含まれるラインを抽出して確認してください。